

服装評価におよぼす比較水準の影響

○福井典代・ 中川敦子* 藤原康晴*
(*鳴門教育大, *香川短大)

【目的】ある服装に対する評価は、その周囲に存在する服装によって影響されることを日常経験している。この現象は社会心理学の分野では社会的比較としてよく知られている概念である。本研究では、ある特定の服装の評価が比較される服装によってどのように異なるかを実験した。

【方法】女子大生に50枚の服装を提示し、「親しい友人の誕生会」という場面を想定して「派手/地味」、「ドレス/カジュアル」の観点から7段階に布置してもらった。各服装の平均値とSD（標準偏差）を算出して、サーストン法の要領で50枚の服装の中から「派手」、「やや派手」、「どちらでもない」、「やや地味」、「地味」と評定された服装を3枚ずつ選定した。これらの各カテゴリーに分類された服装を[「派手」、「どちらでもない」、「地味」]、[「派手」、「どちらでもない」、「やや地味」]、[「やや派手」、「どちらでもない」、「地味」]、[「やや派手」、「どちらでもない」、「やや地味」]の4種に組合せた。各組合せ（服装9枚）をそれぞれ別のグループ学生（約40名）に、同場面を想定して「派手/地味」軸上（7段階）に布置してもらった。また、[「ドレス/カジュアル」]についても同様に実験した。

【結果】「派手/地味」の評価において、もともと「やや地味」と評価されていた服装が「地味」側に移動した。「ドレス/カジュアル」の評価において、もともと「ややカジュアル」と評価されていた服装が「カジュアル」側に移動し、「ややドレス」と評価されていた服装が「ドレス」側に移動した。これらのことから、ある服装が評価されるとき、その周囲に存在する服装によってその評価も異なることがわかった。